

芦ノ湖の釣り、わかさぎ漁

芦ノ湖はニジマス、ブラックバス、ブラウントラウトを含むいくつかの食用種の魚の棲み処ですが、ワカサギで最もよく知られています。1918年に茨城県の霞ヶ浦から持ち込まれたワカサギは、今では地元の漁業者により毎年3～5月に養殖されています。

釣りシーズンは10月1日に始まり、初物は箱根神社の神主に祝福され、その後この恵みは東京の天皇に献上されます。1955年に遡るこの伝統は、前首相吉田茂（1878–1967）が始まりといわれています。吉田は、連合国の日本占領を終わらせたサンフランシスコ講和条約調印を祝うため1952年に建てられた、箱根神社の新しい平和の鳥居の開幕式のため芦ノ湖を訪れました。首相はふるまわれた魚が気に入り、ついには宮中に献上されるよう手配しました。

今日では、芦ノ湖のワカサギの漁獲量は年間3トン程度です。この魚は主に地元のレストランで供され、焼いたり、揚げたり、または天ぷらにすることができます。

